

# 四半期報告書

(第122期第1四半期)

自 2023年4月1日

至 2023年6月30日

靜甲株式会社

# 目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1
第2 事業の状況	2
1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	5
第3 提出会社の状況	6
1 株式等の状況	6
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	6
(6) 議決権の状況	7
2 役員の状況	7
第4 経理の状況	8
1 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
2 その他	16
第二部 提出会社の保証会社等の情報	17

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2023年8月10日
【四半期会計期間】	第122期第1四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	靜甲株式会社
【英訳名】	SEIKO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	取締役社長 鈴木 惠子
【本店の所在の場所】	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号
【電話番号】	(054)366 — 1030
【事務連絡者氏名】	専務取締役 鈴木 武夫
【最寄りの連絡場所】	静岡県静岡市清水区天神二丁目8番1号
【電話番号】	(054)366 — 1030
【事務連絡者氏名】	専務取締役 鈴木 武夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第121期 第1四半期連結 累計期間	第122期 第1四半期連結 累計期間	第121期
会計期間	自2022年 4月1日 至2022年 6月30日	自2023年 4月1日 至2023年 6月30日	自2022年 4月1日 至2023年 3月31日
売上高 (千円)	8,045,807	7,966,310	34,535,011
経常利益 (千円)	64,180	62,857	675,761
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 純損失 (△) (千円)	△51,118	△2,577	331,342
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△62,655	131,079	371,245
純資産額 (千円)	13,708,899	14,282,222	14,203,521
総資産額 (千円)	25,144,598	26,573,096	27,199,281
1株当たり当期純利益又は1株当 たり四半期純損失 (△) (円)	△8.12	△0.40	52.62
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	54.5	53.7	52.2

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、第122期第1四半期連結累計期間及び第121期第1四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため、また、第121期は潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### ①財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は265億7千3百万円となり、前連結会計年度末と比べ6億2千6百万円減少いたしました。この内、流動資産は160億2千万円となり、前連結会計年度末に比べ6億9千1百万円減少いたしました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産の減少11億9千7百万円、現金及び預金の増加6億1千7百万円によるものであります。

固定資産は前連結会計年度末とほぼ同額の105億5千2百万円となりました。

負債合計は122億9千万円となり、前連結会計年度末と比べ7億4百万円減少いたしました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少7億2千万円、賞与引当金の減少2億7千万円、契約負債（流動負債のその他）の増加2億1千8百万円によるものであります。

純資産合計は前連結会計年度末とほぼ同額の142億8千2百万円となりました。

##### ②経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境が改善する下で、景気は緩やかな持ち直しの動きが見られております。一方、世界的な金融引き締めやウクライナ情勢等が続く中、海外景気の下振れなどにより、わが国の景気を下押しするリスクとなっております。

当第1四半期連結累計期間の当社グループの売上高は、電機機器事業では主力のFA関連機器、車両関係事業は主力車種の販売が好調に推移したことにより、前年同期の実績を上回りました。一方、産業機械事業は大型案件の減少、冷間鍛造事業は主要納入先の在庫調整などの影響を受け、前年同期の実績を下回りました。

これらの結果、売上高は、前年同期比1.0%減の79億6千6百万円となりました。

利益面では、産業機械事業と冷間鍛造事業の減収により、経常利益は前年同期比2.1%減の6千2百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失は2百万円（前年同期は5千1百万円の損失）となりました。

### 〔産業機械事業〕

包装機械は、一時期減少していた化粧品関連の受注が徐々に回復傾向にあるものの、前年同期と比較して大型の液体充填ラインの売上が少なかったことに加え、低採算の機械案件があったため前年同期の実績を下回りました。これらの結果、売上高は前年同期比38.7%減の14億7千5百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比56.8%減の1億5百万円となりました。

### 〔冷間鍛造事業〕

電動工具部品は、前年同期の実績並みとなりました。自動車部品、産業機械部品においては、前年から続く主要納入先の減産の影響や在庫調整により受注が低調に推移したため、前年同期の実績を大きく下回りました。これらの結果、売上高は前年同期比28.3%減の3億3千3百万円、セグメント損失（営業損失）は0百万円（前年同期は3千9百万円の利益）となりました。

### 〔電機機器事業〕

主力のF A関連では、機器の確保が進み、納期遅延の影響を受けていた前年同期の実績を大きく上回りました。また、空調機器は大型工事案件の工事の進捗が堅調に推移し、空調周辺部材は商圏拡大や取扱品目が増加したため、前年同期の実績を上回りました。一方、冷熱機器、設備機器は前年同期の実績を下回りました。これらの結果、売上高は前年同期比18.3%増の13億3千4百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比183.1%増の7千3百万円となりました。

### 〔車両関係事業〕

スバル新車販売は、今春より発売開始となった新型車クロストレックが牽引し、前年同期の実績を上回りました。また、中古車販売および輸入車販売も堅調に推移し、いずれも前年同期の実績を上回りました。ただし、他メーカーと同様、新車の供給遅延は解消されず、先行き不透明な状況が続いております。サービス部門は、3年前の新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言の発出による新車販売の落ち込みに伴い、初回車検（3年目）の該当台数が減少したこともあり、総在庫台数はスバル・ボルボ・ポルシェ、すべて前年同期の実績を下回りました。一方、1台当たりの売上単価が増加した結果、売上高は前年同期の実績を上回りました。これらの結果、売上高は前年同期比19.4%増の47億8千6百万円、セグメント利益（営業利益）は5百万円（前年同期は7千万円の損失）となりました。

### 〔不動産等賃貸事業〕

売上高は、前年同期比7.0%増の3千5百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比61.9%増の2千3百万円となりました。

#### (2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### (3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

#### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は9,198千円（産業機械事業7,588千円、冷間鍛造事業1,610千円）となっております。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、産業機械事業は、前年同期と比較して大型の液体充填ライン案件が減少したため、各実績は減少しております。冷間鍛造事業は、前年から続く主要納入先の在庫調整の影響を受け、受注実績及び販売実績は減少しております。電機機器事業は、主力のFA関連機器の納期改善や需要増加を受けて、仕入実績、販売実績とも増加しております。車両関係事業は、主力車種の新車販売が好調に推移したため、仕入実績、販売実績とも増加しております。

①生産実績

当第1四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
産業機械事業	1,152,784	△13.8
冷間鍛造事業	324,934	△18.1
合計	1,609,844	△7.2

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 金額は、販売価格によっております。

②商品仕入実績

当第1四半期連結累計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	商品仕入高(千円)	前年同期比(%)
産業機械事業	265,691	△66.6
電機機器事業	1,056,374	21.9
車両関係事業	3,338,922	8.1
合計	4,660,989	△1.9

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 金額は、仕入価格によっております。

③受注実績

当第1四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
産業機械事業	1,434,328	△25.9	4,504,159	△20.8
冷間鍛造事業	292,130	△32.3	418,450	△13.4
合計	1,726,458	△27.1	4,922,610	△20.2

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。

#### ④販売実績

当第1四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
産業機械事業	1,475,711	△38.7
冷間鍛造事業	333,970	△28.3
電機機器事業	1,334,965	18.3
車両関係事業	4,786,167	19.4
不動産等賃貸事業	35,494	7.0
合計	7,966,310	△1.0

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。

#### (6) 設備の状況

当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画及び重要な設備の除却等の計画はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,200,000
計	19,200,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,483,323	6,483,323	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	6,483,323	6,483,323	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	—	6,483,323	—	100,000	—	1,833,576

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載しております。

### ①【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 9,800	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 6,469,900	64,699	—
単元未満株式	普通株式 3,623	—	—
発行済株式総数	6,483,323	—	—
総株主の議決権	—	64,699	—

### ②【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
静甲株式会社	静岡県静岡市清水区 天神二丁目8番1号	9,800	—	9,800	0.15
計	—	9,800	—	9,800	0.15

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

#### 第4【経理の状況】

##### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

##### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、芙蓉監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,257,068	8,874,844
受取手形、売掛金及び契約資産	※1 4,075,325	※1 2,878,231
電子記録債権	※1 592,845	976,065
商品及び製品	2,530,547	2,134,626
仕掛品	583,065	547,319
原材料及び貯蔵品	50,657	44,856
その他	677,677	612,307
貸倒引当金	△55,481	△48,055
流動資産合計	16,711,707	16,020,196
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,332,784	3,279,555
土地	3,043,980	3,043,980
その他（純額）	1,490,306	1,448,396
有形固定資産合計	7,867,071	7,771,932
無形固定資産		
投資その他の資産	268,913	245,844
投資有価証券	1,993,757	2,188,122
その他	365,755	353,953
貸倒引当金	△7,924	△6,952
投資その他の資産合計	2,351,589	2,535,123
固定資産合計	10,487,574	10,552,899
資産合計	27,199,281	26,573,096
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,581,616	2,861,081
電子記録債務	325,880	342,605
短期借入金	3,534,201	3,502,531
未払法人税等	159,162	66,140
賞与引当金	551,844	281,757
製品保証引当金	26,833	23,252
その他	2,438,036	2,864,706
流動負債合計	10,617,574	9,942,074
固定負債		
長期借入金	1,544,514	1,440,567
役員退職慰労引当金	208,287	200,364
退職給付に係る負債	181,271	186,363
資産除去債務	158,017	158,233
その他	286,094	363,271
固定負債合計	2,378,185	2,348,799
負債合計	12,995,759	12,290,874

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	3,159,341	3,159,298
利益剰余金	10,168,983	10,114,618
自己株式	△5,720	△6,268
株主資本合計	13,422,604	13,367,648
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	780,917	914,574
その他の包括利益累計額合計	780,917	914,574
純資産合計	14,203,521	14,282,222
負債純資産合計	27,199,281	26,573,096

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	8,045,807	7,966,310
売上原価	6,406,064	6,345,355
売上総利益	1,639,743	1,620,954
販売費及び一般管理費	1,623,073	1,626,373
営業利益又は営業損失(△)	16,670	△5,418
営業外収益		
受取利息	22	27
受取配当金	31,318	51,519
その他	20,384	22,601
営業外収益合計	51,724	74,147
営業外費用		
支払利息	3,492	4,534
その他	722	1,337
営業外費用合計	4,214	5,871
経常利益	64,180	62,857
特別利益		
固定資産売却益	1,578	1,480
投資有価証券売却益	—	16,755
特別利益合計	1,578	18,236
特別損失		
固定資産除却損	716	129
特別損失合計	716	129
税金等調整前四半期純利益	65,041	80,963
法人税等	116,160	83,541
四半期純損失(△)	△51,118	△2,577
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△51,118	△2,577

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△51,118	△2,577
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,536	133,657
その他の包括利益合計	△11,536	133,657
四半期包括利益	△62,655	131,079
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△62,655	131,079
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 受取手形割引高及び電子記録債権割引高

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
受取手形	95,703千円	94,593千円
電子記録債権	107,536千円	—

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	210,911千円	211,038千円
のれんの償却額	5,118千円	5,118千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 第120回定時株主総会	普通株式	50,365	8	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月28日 第121回定時株主総会	普通株式	51,787	8	2023年3月31日	2023年6月29日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	産業機械事業	冷間鍛造事業	電機機器事業	車両関係事業	不動産等賃貸事業	
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	2,409,223	466,096	1,128,573	4,008,752	33,161	8,045,807
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	22,860	-	611	85,658	103,567	212,698
計	2,432,084	466,096	1,129,185	4,094,410	136,728	8,258,505
セグメント利益又は損失(△)	244,893	39,550	26,043	△70,189	14,300	254,598

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	254,598
セグメント間取引消去	1,570
全社費用(注)	△239,499
四半期連結損益計算書の営業利益	16,670

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の一般管理費であります。

II 当第1四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年6月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	産業機械事業	冷間鍛造事業	電機機器事業	車両関係事業	不動産等賃貸事業	
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	1,475,711	333,970	1,334,965	4,786,167	35,494	7,966,310
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	21,902	-	1,735	70,682	120,003	214,324
計	1,497,614	333,970	1,336,701	4,856,850	155,498	8,180,634
セグメント利益又は損失(△)	105,910	△879	73,738	5,755	23,154	207,679

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	207,679
セグメント間取引消去	6,108
全社費用(注)	△219,206
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△5,418

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の一般管理費であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	産業機械	冷間鍛造	電機機器	車両関係	不動産等賃貸	
一時点で移転される財	593,585	466,096	922,646	4,008,752	—	5,991,080
一定の期間にわたり移転される財	1,815,638	—	205,927	—	—	2,021,566
顧客との契約から生じる収益	2,409,223	466,096	1,128,573	4,008,752	—	8,012,646
その他の収益	—	—	—	—	33,161	33,161
外部顧客への売上高	2,409,223	466,096	1,128,573	4,008,752	33,161	8,045,807

(注) その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づくリース収益であります。

当第1四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	産業機械	冷間鍛造	電機機器	車両関係	不動産等賃貸	
一時点で移転される財	595,652	333,970	1,134,190	4,786,167	—	6,849,981
一定の期間にわたり移転される財	880,058	—	200,775	—	—	1,080,834
顧客との契約から生じる収益	1,475,711	333,970	1,334,965	4,786,167	—	7,930,815
その他の収益	—	—	—	—	35,494	35,494
外部顧客への売上高	1,475,711	333,970	1,334,965	4,786,167	35,494	7,966,310

(注) その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づくリース収益であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純損失(△)	△8円12銭	△0円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△) (千円)	△51,118	△2,577
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)(千円)	△51,118	△2,577
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,295	6,473

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、前第1四半期連結累計期間及び当第1四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失であり、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月10日

静甲株式会社

取締役会 御中

芙蓉監査法人

静岡県静岡市

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 杉原 賢一

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 金田 洋一

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている静甲株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、静甲株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。